

野生生物の絶滅と保全

- 野生生物の絶滅はさまざまな年代に生じており、1950年代以降は生息地の消失によるものが多い。
- 絶滅危惧種の減少要因として森林伐採、湿地開発、外来種の食害などが指摘されている。
- 絶滅危惧種の分布記録は農耕地、植林地、二次林、自然林など広い範囲に及んでいる。

主な絶滅種・野生絶滅種の減少要因

年代	種名(分類群)	推定される減少要因
1801年～1900年	オガサワラカラスバト(鳥類) オガサワラマシコ(鳥類) ハシブトゴイ(鳥類)	不明 不明 不明
1900年代	ニホンオオカミ(哺乳類) エゾオオカミ(哺乳類)	駆除 駆除
1910年代	カンムリツクシガモ(鳥類)	—
1920年代	キタタキ(鳥類) ダイトウヤマガラ(鳥類)	自然林の減少 不明
1930年代	ダイトウミソサザイ(鳥類) リュウキュウカラスバト(鳥類)	不明 不明
1940年代	クニマス(汽水・淡水魚類)	生息地の変化(強酸性河川水の導入)
1950年代	コゾノメクラチビゴミムシ(昆虫類)	生息地(洞窟)の破壊
1960年代	キイロネクイハムシ(昆虫類) スワモロコ(汽水・淡水魚類) ミナミトミヨ(汽水・淡水魚類)	池の護岸、水質汚染、池の埋立 種間競争、交雑などの説がある 生息場所(湧水域)の消失
1970年代	カドタメクラチビゴミムシ(昆虫類)	生息地(洞窟)の破壊
1980年代	トキ(鳥類)	狩猟、生息環境の消失、農業による汚染

環境省レッドリストより、哺乳類、鳥類、昆虫類、汽水・淡水魚類の分類群から絶滅・野生絶滅を抽出した。抽出したリストから絶滅年代及び減少要因を環境省レッドデータブックの記述により区分した(—印は減少要因に関する記述のない種)。

出典：環境庁、環境省、改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物、環境省。

絶滅のおそれのある野生生物の保全に係る各種法令

	種の保存法関係	その他の法令
1960年代以前		50(S25)文化財保護法制定 57(S32)自然公園法制定 63(S38)鳥獣保護法制定
1970年代	72(S47)特殊鳥類法制定	71(S46)環境庁設置 72(S47)自然環境保全法制定
1980年代	80(S55)ワシントン条約締結	84(S59)「環境影響評価の実施について」閣議決定
1990年代	91(H3)環境庁RDB刊行 92(H4)種の保存法制定 92(H4)希少野生動植物種保存基本方針の決定 94(H6)国内希少野生動植物種(6種)の最初の新規指定	93(H5)環境基本法制定 93(H5)希少野生動植物種保護管理事業開始(林野庁) 93(H5)野生水産動植物の保護に関する基本方針(水産庁) 95(H7)生物多様性国家戦略決定 97(H9)環境影響評価法制定
2000年代	03種の保存法改正(譲渡規制の適正化) 06環境省RDB改訂	04(H16)外来生物法制定 05(H17)全都道府県がRDB/RLを作成 08(H20)生物多様性基本法制定
2010年代		10(H22)生物多様性国家戦略2010決定

分類群ごとの絶滅危惧種の数

日本の絶滅のおそれのある主として、動物、植物等を合わせて3,155種がリストアップされている。

(平成22年3月現在)

	分類群	評価対象種数	絶滅	野生絶滅	絶滅のおそれのある種		準絶滅危惧	情報不足	掲載種数合計	絶滅のおそれのある地域個体群	
					絶滅危惧I類						絶滅危惧II類
					IA類	IB類					
動物	哺乳類	180	4	0	42		18	9	73	19	
					35						
					15	20	7				
	鳥類	約700	13	1	92		18	17	141	2	
					53		39				
					21	32					
	爬虫類	98	0	0	31		17	5	53	3	
					13		18				
					3	10					
	両生類	62	0	0	21		14	1	36	0	
				10		11					
				1	9						
汽水・淡水魚類	約400	4	0	144		26	39	213	17		
				109		35					
				61	48						
昆虫類	約30,000	3	0	239		200	122	564	2		
				110		129					
貝類	約1,100	22	0	377		275	73	747	7		
				163		214					
その他無脊椎動物	約4,200	0	1	56		40	39	136	0		
				17		39					
動物小計			46	2	1002		608	305	1963	50	
					510		492				
植物等	維管束植物	約7,000	33	8	1690		255	32	2018	—	
					1014		676				
					523	491					
	維管束植物以外	約25,300	41	2	463		118	172	796	—	
					287		176				
	蘚苔類	約1,800	1	0	229		22	33	285	—	
					118		111				
	藻類	約5,500	5	1	110		40	37	193	—	
					89		21				
	地衣類	約1,500	5	0	60		39	48	152	—	
				41		19					
菌類	約16,500	30	1	64		17	54	166	—		
				39		25					
植物等小計			74	10	2153		373	204	2814	—	
					1301		852				
合計			120	12	3155		981	509	4777	50	
					1811		1344				

- (1) 動物の評価対象種数(亜種等を含む)は「日本産野生生物目録(環境庁編 1993,1995,1998)」等による。
- (2) 植物等のうち、維管束植物の評価対象種数(亜種等を含む)は日本植物分類学会の集計による。
- (3) 植物等のうち、維管束植物以外(蘚苔類、藻類、地衣類、菌類)の評価対象種数(亜種等を含む)は環境省調査による。
- (4) 昆虫類、貝類、その他無脊椎動物及び維管束植物以外については、絶滅危I類のうちIA類とIB類の区分は行っていない。

カテゴリーは以下のとおり。

絶滅(Extinct)：我が国では既に絶滅したと考えられる種

野生絶滅(Extinct in the Wild)：飼育・栽培下でのみ存続している種

絶滅危惧I類(Critically Endangered + Endangered)：絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧II類(Vulnerable)：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧(Near Threatened)：存続基盤が脆弱な種

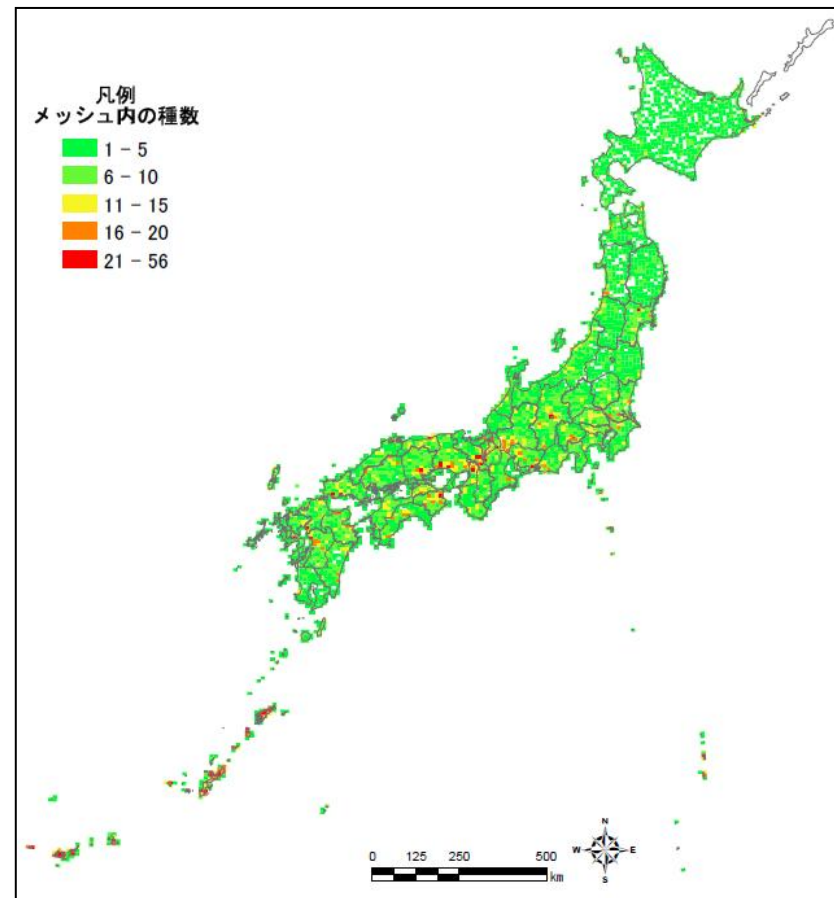
情報不足(Data Deficient)：評価するだけの情報が不足している種

(付属資料)

絶滅のおそれのある地域個体群(Threatened Local Population)：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの(動物のみ)

絶滅危惧種の分布状況

絶滅危惧種（動物）の分布状況

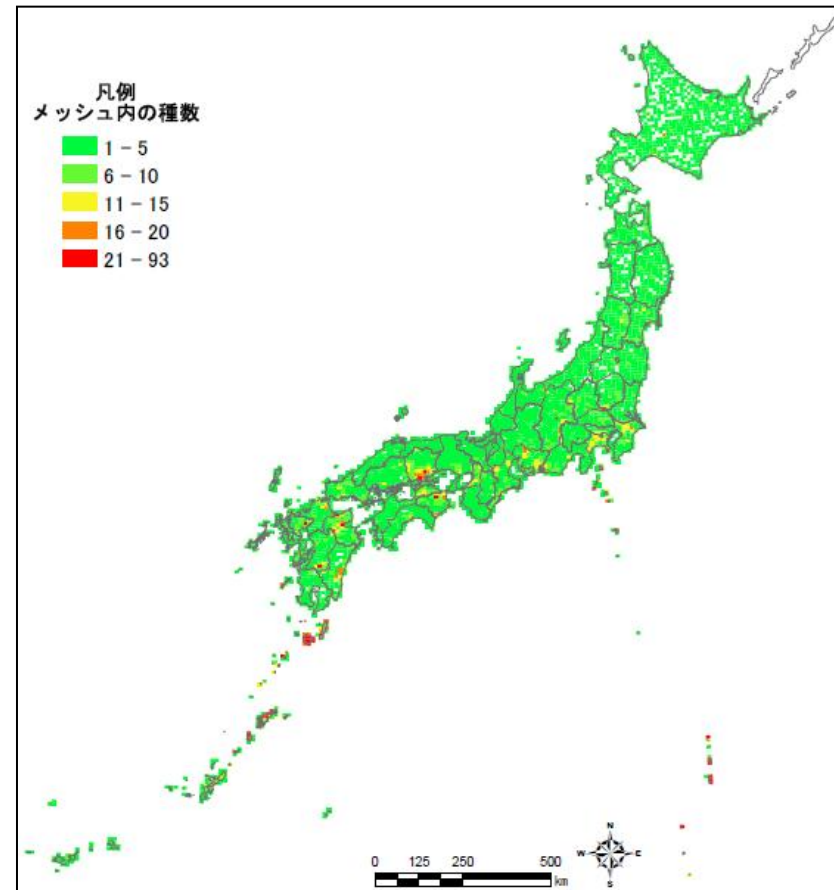


・動物のレッドデータブック掲載種（絶滅危惧Ⅱ類以上）の分布データを用いて、2次メッシュ（1辺10kmメッシュ）ごとの分布種数を集計。

・動物の絶滅危惧種が集中して分布する地域は、東北地方の一部、関東平野の一部、東海地方の一部、琵琶湖周辺、瀬戸内海周辺、四国東部、有明海周辺、南西諸島などであり、島しょや平野部に多く見られる。

出典：
 ○環境庁 環境省 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物、
 ○自然環境保全基礎調査 種の多様性調査（昭和58～平成10年、環境省）
 ○第6回基礎調査 鳥類繁殖分布調査
 ○国土交通省 河川水辺の国勢調査（平成3～20年、国土交通省）
 ○農林水産省 田んぼの生きもの調査（平成14～21年、農林水産省）

絶滅危惧種（維管束植物）の分布状況



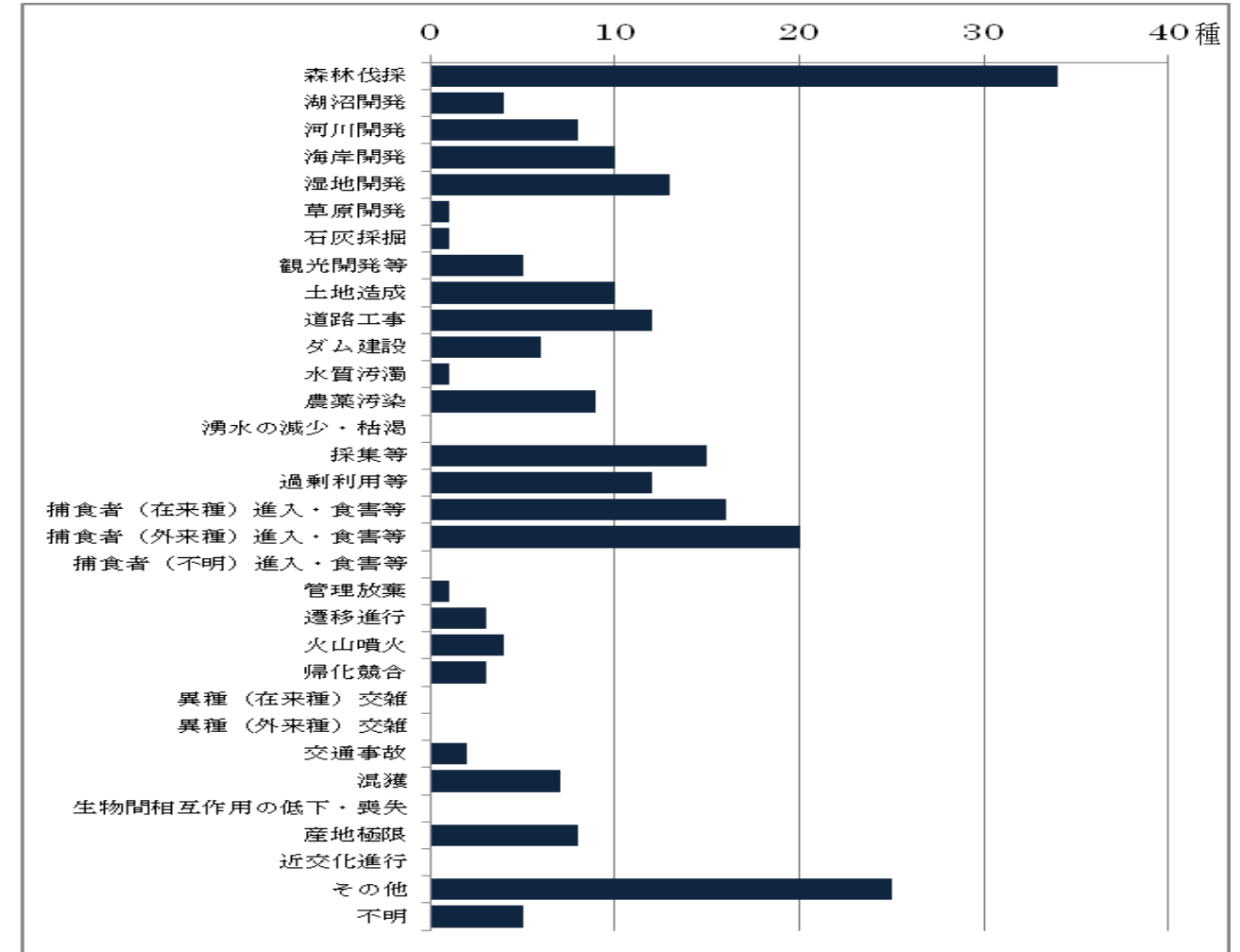
・植物のレッドデータブック掲載種（絶滅危惧Ⅱ類以上）の分布データを用いて、2次メッシュ（1辺10kmメッシュ）ごとの分布種数を集計。

・植物の絶滅危惧種が集中して分布する地域は、関東平野の一部、伊豆・小笠原諸島、南アルプス、東海地方の一部、瀬戸内海周辺、四国東部、九州の一部、屋久島、奄美大島などであり、高山帯、平野部、島しょに多く見られる。

出典：
 ○環境省 日本絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト
 ○日本植物分類学会提供データ（平成19年、植物分類学会）
 ○国土交通省 河川水辺の国勢調査（平成3～20年、国土交通省）

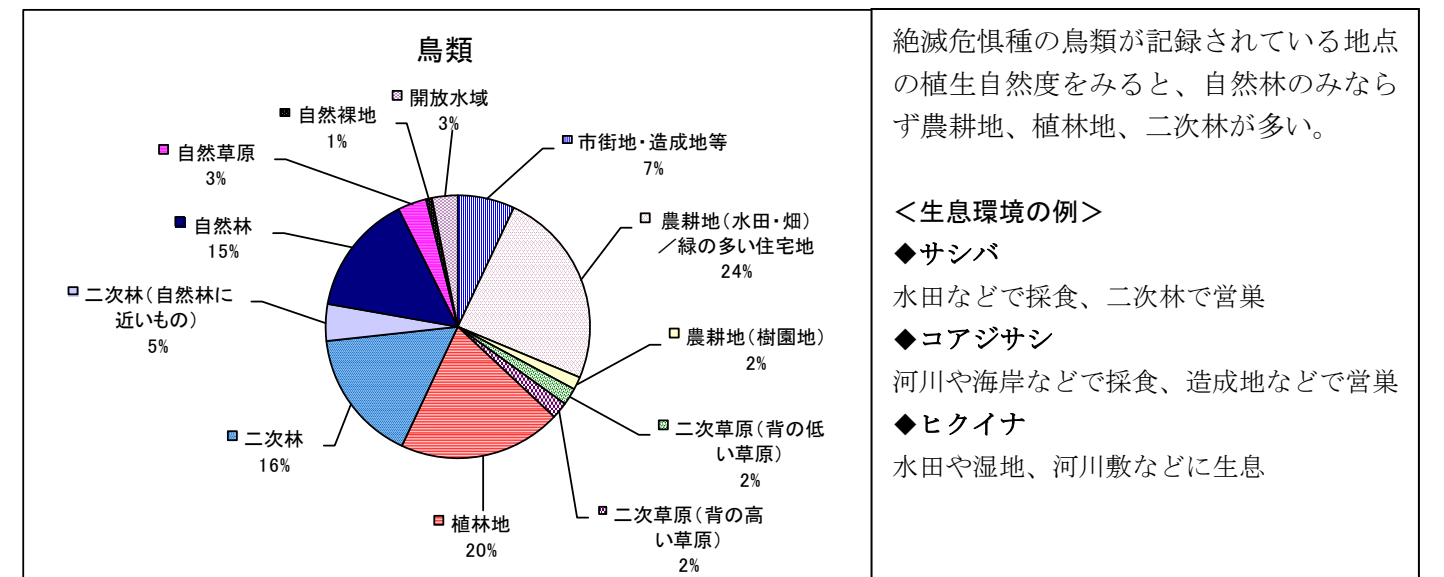
絶滅危惧種（鳥類）の減少要因

森林伐採、湿地開発、外来種の食害などが指摘されている。



出典：環境省編、2002、改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック〈鳥類〉の記述内容から作成

絶滅危惧種分布データ（鳥類）の植生自然度区分別記録割合



絶滅危惧種の鳥類が記録されている地点の植生自然度をみると、自然林のみならず農耕地、植林地、二次林が多い。

＜生息環境の例＞

- ◆サシバ
水田などで採食、二次林で営巣
- ◆コアジサシ
河川や海岸などで採食、造成地などで営巣
- ◆ヒクイナ
水田や湿地、河川敷などに生息

出典：自然環境保全基礎調査 第5回植生調査 現存植生図（平成5～10年）、第2回基礎調査 日本産鳥類の繁殖分布、第3回基礎調査 動植物分布調査 鳥類（越冬期）、第6回基礎調査 鳥類繁殖分布調査（環境省）